

山行報告書

報告書作成

2008年5月20日

| | | | |
|---------|-----------|-------|------------|
| 山名 [山域] | 富士山 | 目的と方法 | 須走口からの山スキー |
| 登山期間 | 5月16日～17日 | 山行形態 | 夜行日帰り |
| 参加人数 | 4人 | | |

[5/16(金)]

21時岡崎市民病院集合～23時富士川SA(仮眠)

[5/17(土) 晴れ 曇り(霧)]

5時起床～5時30分発～御殿場IC - 6時30分須走登山口、7時15分発～9時45分6合目～11時15分2900m地点～13時50分3450m地点(8合目)休憩 1さん13時30分頃から頂上アタック～14時25分登頂 (登山口から8合目まで6時間45分)

14時50分8合目下山開始～15時30分6合目～16時40分須走口(下山1時間50分) = 御殿場IC = 焼津IC = 豊橋豊川IC = 21時

概念図



行動記録

金曜日21時に集合し富士川SAまで走る、当初の計画では登山口で仮眠することになっていたが、東屋を使えるのでここで仮眠することに変更した。

5時起床としたが、かなり明るい、急いで朝食を取り、登山口に向う。須走口Pには数台の車があり、1台車のパーティー以外はスタートした後であった。天気が良くここから頂上に向かって望む雪原が美しい。7時過ぎ開いている売店の前を通り登山口に入るがなんとか雪が残っている、下りはここまで滑降可能である。しかしスキーをザックに着けて歩きだしたので海拔2100m位まで歩き、ここからシール歩行に入る。1時間ほど過ぎたころからKKさんが調子を崩し遅れ出したため、大事を取りKさんに付き添っていただくことにした。6合目付近から、除々に傾斜がきつくなり、私のショートスキーでは直登が困難に成った。そこでスキーアイゼンを装着して、シグザグに進むことにしたが中々1さんのペースでは歩けない。予定では13時を登頂最終時刻としていたが、かなり遅れ、8合目(標高約3450m)には13時50分やっと到着した。私はここで、電話連絡を取り、頂上をアタックしている1さんを待つことにした。この時点で曇り出し、急に気温が低下、急いでダウンのヤックを着込み、滑降に必要なスタナの回復を図った。

14時50分位に1さんと合流しいよいよ大滑降に入るが、先ほどまで緩んでいた雪面が凍り始め、滑り出しには勇気が必要であった。滑り出すとその衝撃で表面の氷が割れ、一斉に斜面を滑り出す、中々壮観な景色である。その後、滑り易い雪質の斜面に入ったが、こんどは急に濃い霧に覆われ、平衡感覚が無くなる経験をした。均一の被写体、例えば白い画用紙をデジタルカメラの自動焦点機能で認識できないと同じ原理で有る。視界が利かないため磁石を見ながら、また時々GPSでコースを確認しながら、ほぼ行きと同じコースを使い下山出来た。最後は林間コースに入ったがなんとか、登山口まで滑りことが出来た。

感想

今回の計画は睡眠時間を重視して、出発を7時としたが(実績は7時15分)、金曜日に登山口まで来て、5時出発くらいにすべきであった。そのようにすれば私も登頂できたと思う。また残念なことに、KKさんの体調が今一つ優れず、6合目までとなってしまったが、須走口からの登山の場合標高差が約1700m有るため、かなりの体力が必要である。また今回富士山、山スキー定番コースである、富士宮コースではなく、須走コースを選んだが、登山口である、標高2000m位までの積雪が期待できる、時期であれば、安全性が高く、良いコースで有る。

登頂したC1コメント

クラストしだした9.5合目13:55にシール登行はあきらめ、スキー板をザックにつけ、アイゼンに履き替え、14:25須走口頂上の鳥居に到着した、雪面がカチカチに凍らない内に急いでシールを外し、テレマークスキーを履き、頂上から気合を入れて14:45に飛び出す、滑落しないように確実なターンを繰り返すと14:50TNさんの待つ8合目に着いた。ほとんど頂上までシールで登れ、頂上からスキー滑降出来たことがうれしい。